

信濃

中国の工業、政治の中心地帯を襲った河北大地震の余震はまだおさまっていないが、党・政府幹部が相ついで被災地を訪れ、自力更生路線で復旧に著々成果をあげていると報じている。物資の円滑な供給によって、生活面の混乱も最小限度に抑えられているのは、新中国の安定した底力を



中嶋 崇雄

裏付けるものといえる。しかし、中国の心臓部を直撃した激震だけに、やはりその衝撃の影響は長くさまざまな形で今後表面化するとも予想される。そうした政治的・社会的影響をめぐって、中嶋崇雄・東京外語大助教授(中国問題)に『疑問の提起』をおねがいした。

中国地震の政治的意味

不透明な状況拍車

パニックで新しい意識も

去る七月二十八日早朝、中国河北省唐山市を中心としたマツ二チュード7・3の大地震は、二週間たった今日でも、なお終息していないようである。八月九日早朝にはかなりの余震が北京でも感じられたといわれ、翌八月十日に中国外務省は、唐山地区で「近く比較的強い地震が発生する可能性がある」と再び警報を発した。先月三十日以来、地震再発の警報を

出づつづけてきた中国当局は、八月一日、異例の外国人退去勧告を発したが、この四日には、警報をいささか訂正して危険がやや減ったことを示唆していたのに、再び

激しい警戒体制に戻った傾向がある。従って、近日中もしくは近い将来に大地震が再発するかもしれないという現状において結論的なことはいえないし、今回の地震の全容とその被害状況の詳細について、中国側は現在のところ発表し

それにしても今回の地震は、中国の工業地帯が被災しているという最近の新华社報道に依拠した「階級闘争」中心の社会主義建設、人間の主観的能动性を鼓舞する大衆動員方式の社会主義建設の思わぬ降せ(弊)を示し出したものといえよう。この降せに気づいたとき、中国は「工業、農業、国防、科学・技術」の四つの現代化を中心とする近代的な工業体系の整備・建設に本格的に乗り出さねばならないはずであるが、亡き周恩来首相が強調し、鄧小平副首相が強引に推進しようとしたこの方向は、「資本主義の道歩む実権派」「走資派」路線として厳しく糾弾されたばかりである。のみならず八月九日付「人民日報」の短評「一つの奇跡」は「共産党の指導のもとでは、人間さえいれば、この世のどんな奇跡でもくり出すことができる」との毛沢東の言葉を用いて災害克服への方向を再び「毛沢東思想に依拠して強調し



東華門前の路上での生活を続ける北京市民一共同

「人は天災に勝つ」とことを教えられてきた中国民衆にとって、肝心の中国中核部の地震予知に成功しなかったことは、重大な衝撃であり、教訓であろう。第三には、日本人死者も出た唐山賓館や北京飯店、北京百貨大店の例に見られるように中国の建造物の耐震性の低さが露呈したこと事態はより深刻である。(東京外語大助教授)

以上の諸点は「毛沢東思想」に依拠した「階級闘争」中心の社会主義建設、人間の主観的能动性を鼓舞する大衆動員方式の社会主義建設の思わぬ降せ(弊)を示し出したものといえよう。この降せに気づいたとき、中国は「工業、農業、国防、科学・技術」の四つの現代化を中心とする近代的な工業体系の整備・建設に本格的に乗り出さねばならないはずであるが、亡き周恩来首相が強調し、鄧小平副首相が強引に推進しようとしたこの方向は、「資本主義の道歩む実権派」「走資派」路線として厳しく糾弾されたばかりである。のみならず八月九日付「人民日報」の短評「一つの奇跡」は「共産党の指導のもとでは、人間さえいれば、この世のどんな奇跡でもくり出すことができる」との毛沢東の言葉を用いて災害克服への方向を再び「毛沢東思想に依拠して強調し